

# 望みは「宝の海」

## よみがえれ！有明海・国会通信

【西日本新聞連載「たたかい続けるということ・馬奈木昭雄さん」10月26日】

「私たちがほしいのはカネじゃない。宝の海を守るのだ」。

一転「敗訴」となった長崎地裁判決後、原告団副団長の平方宣清さんが怒りを込めて言いました。その通りです。私も思わず声を荒らげました。「われわれは物盗(と)りじゃないんだ」と。

どういうことか。長崎地裁は、諫早湾を閉め切った潮受け堤防の排水門開門は認めない一方で、コノシロなど一部の魚については漁業被害を認め、国に賠償を命じたのです。私たちは「負けた」のか。これ、ほかの裁判に置き換えると「勝訴」として報道される内容でもあります。

例えば、騒音訴訟と比較すれば分かりやすい。空港などの騒音訴訟は各地で起きています。メーンの要求は騒音の差し止めです。差し止めるまでの間、損害賠償を支払いなさい、と訴える。判決は、差し止めは認めませんが、騒音被害は認定。判決時点までの被害については損害賠償を支払いなさい、と命じる。新聞の見出しは「原告勝訴」です。

でも騒音は止まらないから被害は続く。どうするか。また差し止め請求を起こし、損害賠償を求める。つまり

被告側は、騒音を止めない限り賠償責任を負い続けることになる。

あえて言えば、長崎判決は国にそれをやれと言ってるんです。今回賠償請求が認められた原告は16世帯。過去13年分の1億1千万円です。同じ立場の方が、この裁判の原告以外に大勢いらっしゃる。もう腹を立てた、徹底して追加提訴し、損害賠償の裁判をやり抜くぞと言ったら、どういうことになるか。すでに追加提訴している2陣、3陣にも、賠償の対象になり得る漁民たちがいます。

私たちは、この長崎訴訟で勝って農林水産省に乗り込むつもりでした。判決は予想外でしたが、それでも、平方さんや、原告団長の松永秀則さんたちとともに上京しました。決してへこたれない。判決に運命を委ねているわけではないからです。判決翌日には衆議院第1議員会館で院内集会を開きました。平方さんが訴えた。今、港に船をつないだままなのだ。生活のためには、タマネギ収穫の「出稼ぎ」に行かざるを得ない状態なのだ。

「目の前に海があるのにどうすることもできない日が続く。政権交代しただけで、もう随分時間がたってしまった」と。

よみがえれ！  
有明訴訟弁護団  
(後藤富和)発行  
092-512-1636  
090-9602-0700

## 手を取り合って

【西日本新聞連載「たたかい続けるということ・弁護士馬奈木昭雄さん」10月27日】

不漁に苦しむタイラギ漁ですが、毎年、稚貝は発生しています。それが、成貝になれず死んでしまう。

7月に開いた福岡、佐賀、長崎、熊本、4県漁民による集会で、ある漁師が言いました。ノリは「死ぬ」とき、胞子を大量に出す。それは子孫を残すための最後の営みだ、と。タイラギも同じ。稚貝が多く発生するのは、断末魔の叫びなんだ、と。漁民と弁護士をつなぐ存在として奔走してくれている事務局員の岩井三樹さんは、「有明訴訟」を支援する全国の会の事務局長でもあります。こんな声も聞いています。「足のなかいカが取れよる。餌んなかから自分の足ば食いよつと」「ちいさかイカが卵もつとる。種族維持のためやろう」。このままだと本場に「死の海」になる、というのが現場の漁師の感覚なのです。

福岡高裁判決の確定で、国は排水門の開門義務を負いました。私たちは漁業と農業が共存できる開門方法を協議しよう、と、地元の長崎県に話し合いの場の設置を求めています。

でも県は「訴訟中だ」とまともに応じない。

開門反対の県や住民、干拓地に植した農民たちが、開門差し止めを求めて提訴したのです。

確定判決を実行するということ、法律家も驚く裁判です。被告は国ですが、私たちも補助参加を求めました。

7月5日の第1回弁論。原告の農民の方々には開門で被害が出ると訴えた。また、住民が、1957年の諫早大水害のような洪水を防げなくなる、とおっしゃった。

誤解です。干拓事業にあのような大水害を防ぐ力はないし、それは国も認めていることです。

これから県側は、開門で起きる被害を立証する必要があります。

国と私たちは「こういう対策を取ればその被害は防げる」と主張していきます。つまり、これこそが「開門協議」。私たちがどんなに要請してもテーブルにつかない長崎県も、自分が起こした裁判だから議論に応じないわけにはいきません。願ってもない「協議の場」になるわけです。

この日の法廷で、わが原告団長松永秀則さんが意見を述べた。

「私たちは自分たちだけじゃいけないって思っています」「開門に反対する農民、漁民もいますが、安心・安全な食料を国民に提供したい気持ちと同じ。同じ長崎県民、諫早市民として手を取り合って話し合うことができるはずですよ」